

身近な自然を使って中学校で環境学習

身近な自然を使ってできること

◎ 隠された魅力をひもとくおもしろさ

身近な自然には、普段目にしているにもかかわらず、そこに新鮮な発見や多様な視点が隠されています。場所によって生きものの種類は異なりますが、都会でも意外にも多くの生きものが生息していることに驚かされるでしょう。こうした意外な事実の発見は、探求心や思考の原動力になるでしょう。

私たちは無意識のうちに既成概念を事実としてとらえがちですが、当たり前だと感じていた視点を切り替えてみたり、しっかりと見つめ直すことで、今までとは違った事実を発見できます。そうした体験は、ほかの場面での思考や体験につながっていきます。

◎ 身近な自然から地球環境へつなげる

日常生活から離れ、原始的な自然環境に身を置いたり、何らかの環境問題が起こっている場に行くことから多くの体験と学びが得られることでしょう。地球環境問題の情報やそれに対する提言、構造の図式化はすでに多くの出版物やホームページで得ることができます。しかしながら、自分たちの日常生活が環境と不可分の関係であり、それを自ら気づき学んでいくことが、環境学習を進めていく重要なステップです。地球規模の環境問題も身近な自然を取り掛かりにすることで、日常の一部として取り組めるようになります。

実際に地域の公園や緑地の環境を使って、多くの学習プログラムが展開できます。ここで紹介しているものはその一部であり、多くのアプローチが身近な自然を使ってできるものと考えています。街中のわずかな土や緑からも、生物多様性や地球温暖化の話に発展できるのです。

◎ 学校外の場と人材を活かして

「総合的な学習の時間」のカリキュラムでは学校やクラスごとに裁量が任せられ、学校外での実習や地域の施設や団体との連携が、学校の判断によって取り組めるようになりました。そのことにより環境学習に適した場所や施設を活用したり、外部の専門家に会って話を聞き、プログラムのサポートをするスタッフの協力を得ることもできます。環境学習というと専門的な要素が多く扱いつらいととらわれがちですが、学校外の場や人材の活用によって充実を図っていくことで、ほかでは学習できない要素を取り込めます。

ここでは、里山環境の代表として横浜市にある「横浜自然観察の森」を、都会の緑地として「新宿御苑」をフィールドに取り上げました。プログラムは、それぞれのフィールドの環境や特性を活かして組み立てたものです。

◎ 自分ごととして環境をとらえる

環境学習では、環境の問題を学習者が「自分のこと」として受け止め、自分はどう考えるのか、どう行動するかに引き上げていくことを、大きな目的の一つに置いています。

現在学校で取り組まれている環境学習は、①自然とふれあう体験をする、②環境の問題としてどんなことが起こっているのか認識する、③自分たちができる行動を考えて取り組む、という学習が多いようです。「環境」という幅広く多様な分野を学習するにあたって、一過性にはならない展開をする必要があるでしょう。

中学校での環境学習

◎ 中学校では小学校とは異なる組み立てと目標を

中学校では小学校での学習をふまえ、環境学習を小学生では扱えなかったレベルに発展することが必要です。思考力や行動力が格段に上がり、広く社会を認識していく時期でもあることから、中学生以上の環境学習は社会的な視野や多様な世界観を意識していくものとすべきでしょう。個人の成長過程に応じ、また取り組むテーマによってさらに成長を促せるカリキュラムが理想です。

その一つとして、自らの調査や、観察、実験からデータを得て、分析し、より科学的に考察する学習があげられます。本当に事実はそうなのか自ら検証し、科学的事実を自らが探求する楽しさを体験します。

また、学校外での地域の方々や専門家・研究者へのアプローチは、広い視野でものごとをとらえることにつながります。人に自分の考えや思いを伝えることは、論理的に自分の考えをまとめる学習となり、他者とのコミュニケーションを通じてより一般化してものごとをとらえることができるようになります。個人の表現力が格段に上がることからも、小学校とは違う創作的な表現に展開していくことも考えられます。

◎ プロジェクトから学ぶ経験

学習者の自立性を高めるものとして「プロジェクト推進型」のプログラムを提案します。あらかじめカリキュラムによって学ぶ内容を決めておくのではなく、テーマや前提となる条件、目標とする成果物と制作にあたってのルールや時間の設定等を決め、学習者が主体的に成果を上げる取り組みに参加するスタイルです。あたかも一つのプロジェクトを立ち上げ、集団で成し遂げる達成感から学びを得ます。

教師や大人など誰かに教わるという学習ではなく、必要なことを自らが見極め、成果を出すために努力する過程から学んでいくことで、グループワークの効果もあげられるでしょう。成果物をグループ間で比べたり、成果の発表によって達成したものを共有することも学習効果につながります。

◎ 伸ばしてほしい能力

環境学習を進めていく上でも、学習者個人の能力アップは重要です。特に中学の成長過程に身につけてほしいと考える能力については、以下のようなものがあります。

- ・問題・課題を見つける能力
- ・原因・結果を予想する能力
- ・調査の方法を考える能力
- ・データを記録し整理する能力
- ・データから特徴を見つける能力
- ・論理的に自分の考えをまとめる能力
- ・他者とコミュニケーションする能力
- ・相手を理解し評価しあう能力
- ・発想を形にする能力
- ・共同で作業を進める能力
- ・社会や環境を認識する能力
- ・自らの行動に結び付ける能力